

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ここっと。城東		
○保護者評価実施期間	2024年 4月 1日 ～ 2025年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	2024年 4月 1日 ～ 2025年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用についてや日ごろの様子などの共有などをこまめに丁寧に行い、お子さまだけでなく、ご家族様も不安にならないように配慮しているところ。	良いことも難しかったことなどを伝え、良くなかったことはどう対応したのか等出来事だけでなく支援を行い結果どうなったかまでをお伝えするようにしている。	どの職員でも、共有の質を同じにするために、定期的に確認を行い共有の質を高めていく。
2	子どもたちが安心して来所できる施設であること。	子どもたちの興味関心に寄り添いながら、友達と過ごす空間であることを意識し、子どもたちの自主的な気持ちを尊重している。トラブルが起きた場合でも仲直り等まで職員が介入し、もやもやした気持ちのまま帰宅しないように意識している。また療育も行い達成感を育み、メリハリのある時間を過ごせるようなプログラムにしている。	子ども達が自ら考える事を促し、自己にて決定していける心をはぐくめるような、支援を職員一同常に心掛けていくこと。
3	質問や相談をしやすい、迅速に対応できる施設であるところ。	送迎時の対面や、電話、ライン等様々な連絡ツールを活用し、保護者様の相談しやすい方法にて相談できるシステムを使用している。	ご希望の相談方法があれば検討し、対応できるものはすぐに対応していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様同士の交流の場や、保護者様に向けたトレーニング方法の研修等を行っておらず、横のつながりが弱い。	感染対策や個人情報保護の観点から交流する場として企画を行っておらず、個々のみに対応していたため。	茶話会のような気楽に参加できる親子イベント等を企画し、横の広がりも広げていけるように取り組んでいく。
2	災害時に備えて、避難訓練等を行っているが、保護者様との連絡網の確認や避難場所の再度確認等、不透明なところが多いこと。	利用開始時などにはお伝えしているが、その後の訓練を行う機会が作れていない。また避難場所などの再度確認をする機会がなくていけない事。	施設で定期的に行っている避難訓練時等で、保護者様に様子だけでなく、避難場所の確認や、一緒に連絡の確認をする機会を計画する。
3	送迎車の運転スキルや安全マニュアル（シートベルトの付け方等）に、基準やトレーニングが必要。	ジュニアシートの使い方や送迎車の昇降の際の注意等の研修を行っているが、マニュアル化されていないため職員によって差異が出ていること。	研修を行う職員の統一や毎月の安全会議にて送迎車についての確認を行い、職員の差異をなくしていく取り組みを行えます。